

かまくらシンフォニエッタ

1997年2月、鎌倉市とその近郊在住の有志により「平日に活動する室内管弦楽団」として発足。定期演奏会をはじめ依頼演奏会、福祉施設への訪問コンサートなど地域に根を下ろした演奏活動を行っています。



阿部真也・指揮

幼少よりピアノ、13歳よりヴァイオリンを始める。札幌インターナショナルスクール在学中に17歳で単独渡米。サンフランシスコ音楽院ヴァイオリン、ヴィオラ科修了。2005年より拠点をドレスデンに移し、オーケストラヴィオラ奏者、指揮者としての研鑽を積む。2006年ゴールドバ国際指揮者コンクール入賞。2007年よりエドワードサイド音楽院バツレーム校の教授に就任。現在は同音楽院客員教授として在籍。2009年よりコバケンと仲間達プレミアムオーケストラヴィオラ首席奏者、夏の音楽祭には講師として参加。2010年ロームミュージック基金在外研究生に選ばれ、世界各国の一流オーケストラ、奏者との共演を重ね、研鑽を積む。2012年CHANEL Pygmalion室内楽シリーズのヴィオラ奏者として出演。2014年より横浜シンフォニエッタ ヴァイオリン、ヴィオラ奏者、東京ヴィヴァルディ合奏団、国内外オーケストラで客演首席ヴィオラ奏者を務める他、客演指揮者としても多くの演奏会に出演。今までに、アスペン、タングルウッド、ラフォールジュルネ、ロストロポーヴィチ等の国際音楽祭に出演。音の輪音楽教室主宰、ラインハイト室内楽アカデミー講師、Ebb & Flow Art近現代音楽祭ヴィオラ講師等で後進の指導にも力を注いでいる。

本日の出演者

室内管弦楽団

かまくら **シンフォニエッタ**



| | | | |
|----------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|
| Violin | 市瀬雅子 高橋けい子 丸山寿一 松野美智子 守本純子 | 小原治子 戸津隆子 美坂寿子 松村紀子 畑中友季子 | 関 美和子 豊田爽子 矢野雅代 曾根民子 高橋康王 |
| Viola | 小原克馬 三門サカエ | 加藤敬子 水上 清 | 高久邦子 河合訓子 |
| Cello | 射場寛子 中井良樹 | 尾崎 彩 堀口省平 | 中井まゆみ |
| Bass | 石井 明 宮部宏美 | 梅沢定彦 | 松永弘城 |
| Flute | 生田千晴 | 鈴木真紀子 | 森口尚美 |
| Oboe | 小林隆志 | 中井真澄 | |
| Clarinet | 新居淑子 | 田村千尋 | |
| Fagott | 西谷裕之 | 松木祐子 | 松木葉子 |
| Horn | 秋元 健 | 小川 恵 | |
| Trumpet | 蒲生雄介 | 高橋勇太郎 | |
| Trombone | 飯田智彦 | 覚張俊介 | 三原万里子 |
| Percuss. | 宮部裕美 | | |

代表：梅沢定彦

コンサートミストレス：関 美和子

秋のアフタヌーンコンサート

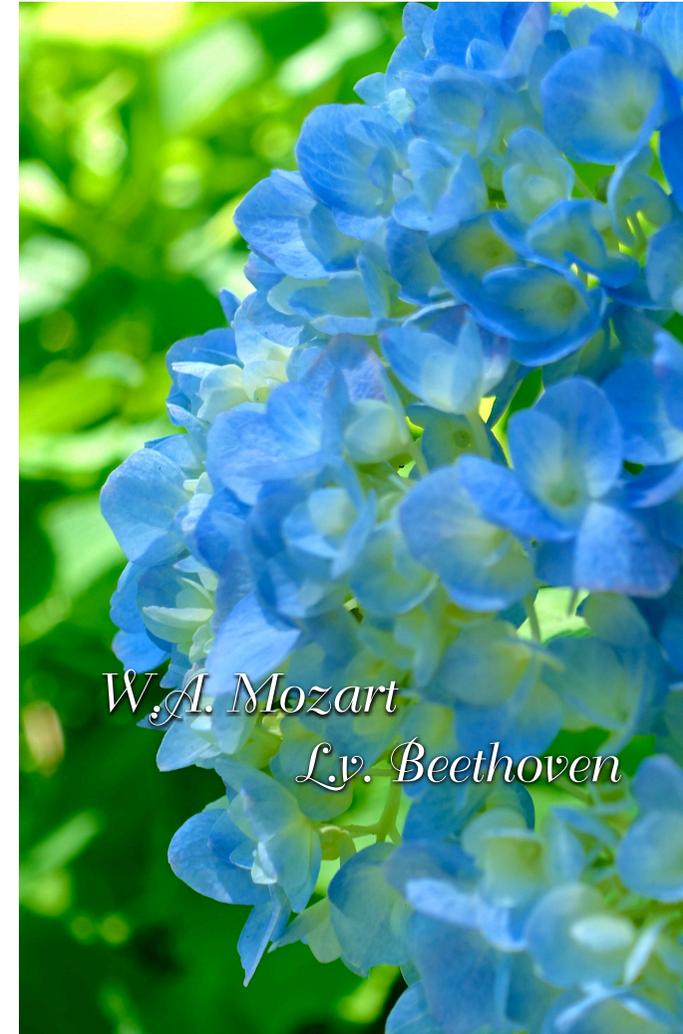
2021年11月6日(土) 14時開演

地球市民かながわプラザ プラザホール(本郷台)

ロッシーニ 歌劇「ブルスキノー氏」序曲
テレマン ヴィオラ協奏曲 ト長調 (独奏：阿部真也)
モーツァルト 交響曲第35番 二長調 「ハフナー」

かまくら シンフォニエッタ

第20回定期演奏会



W.A. Mozart
L.v. Beethoven

2021年6月12日(土)

鎌倉芸術館小ホール

後援：鎌倉市・鎌倉合奏連盟



プログラム 曲目解説

W.A. モーツァルト

歌劇「魔笛」序曲 変ホ長調 K.620

魔笛はモーツァルトが作曲した生涯最後のオペラで、庶民を対象として作られました。初演は1791年9月30日のウィーン。モーツァルトはその後12月5日にこの世を去りましたが、初演からわずか1年で上演回数が100回を超えたと言われるほど大ヒットしました。ストーリーは、荒唐無稽で辻褄が合わないところがあるものの、このオペラが魅力的で誰からも愛されているのは、極上のモーツァルトの音楽を聴くことができるからでしょう。夜の女王のアリアと言えば、最高音が高いファという超絶技巧を要し、「パパパの二重唱」は何とも楽しい歌で、どちらもこのオペラの名物となっています。さて、本日の演奏は序曲。はじめに和音が鳴り響き、夜の雰囲気を思わせる厳かな冒頭部からは一転、軽快なテーマが現れます。中間部は謎めいた管楽器の演奏、再びアレグロのテーマが演奏されます。劇中ではタミーノが魔笛のフルートを吹き森の獣や鳥がその音色に聞きほれますが、序曲でも管楽器が同様の活躍をしており聴きどころとなっています。

L.v. ベートーヴェン

三重協奏曲 八長調 Op.56

この曲（通称：トリプルコンチェルト）は、ピアノソナタ第23番「熱情」、交響曲第3番「英雄」などが書かれた時期の作品で、1803年から翌年にかけて作曲されています。協奏曲は通常、一人の独奏者・楽器かせいぜい二人の独奏者が一般的ですが、ピアノ三重奏（ピアノ、ヴァイオリン、チェロ）をひとつの独奏楽器として扱った独創的な発想の曲です。また当時チェロを伴った協奏曲は少なくこの曲はベートーヴェンが残した唯一のチェロを伴った協奏曲ともなります。その分、力が入ったのかチェロにとっては重音奏法や急速な分散和音や音階などが要求される超難曲になっています。

とても独創的なのですが、斬新過ぎ、ソリストを3人も必要とする、他にベートーヴェンの人気作品はいっぱいある、等々の大人の事情（たぶん）により演奏される機会があまり多くない作品でもあります。

そのため本日初めてお聴きになる方もいらしゃると思いますがソリストの皆さんの素晴らしい演奏とベートーヴェンの独創性？を楽しんでいただければ幸いです。

なお、独奏楽器群がピアノ三重奏的な役割を果たしているのが通常の協奏曲のようなカデンツァはありません。第3楽章アラ・ポラッカとはポーランド風にという意味で中間部にポーランド民謡であるポロネーズのリズムがでてくるのも独創性なのかもしれませんね。

- 第1楽章 Allegro
- 第2楽章 Largo
- 第3楽章 Rond alla Polacca

（演奏時間は約36分）

——— 休 憩 ———

L.v. ベートーヴェン

交響曲第5番「運命」 八短調 Op.67

誰でも知っているこの運命の動機。これが繰り返し繰り返し小さく大きく色を変え色んな所に出きます。たったこれだけのメロディがどンドン展開して綿密に組み立てられ壮大な音楽になるのは驚きです。



- 第1楽章 Allegro con brio
- 第2楽章 Andante con moto
- 第3楽章 Allegro. attacca
- 第4楽章 Allegro - Presto

曲想は「暗から明へ」というドラマティックな楽曲構成となっています。この5番は完璧なまでの大傑作でありその後の作曲家に強く意識されるようになりました。まあ、誰もが付けたいけど付けられない長嶋選手の背番号3みたいなものではないでしょうか？

それはともかく、運命とは何か、色々考えられますが、例えばそれは、自分が交通事故に遭ったとか不治の病にかかったとか子供が死んだとか、とうてい受け入れがたい取り返しのつかない事実に出会った時に主体的に悟る事ではないでしょうか。第3者は起きたことについて色々原因をあげつらったり分析解説してそれは必然であったかのように扱うことは可能ですが、当の本人にすれば全ては大きなお世話、どんな要因があろうとも自分が被った事態は誰も分かってくれない、その時人はどの様な態度をとるでしょう、・・・さて、ベートーヴェンのメッセージは何でしょうか。

（演奏時間は約32分）

演奏者プロフィール

Piano/ 松本裕子

桐朋音楽大卒業後、米国インディアナ大学音楽学部大学院へ留学。修士課程及びパフォーミング・ディプロマコースを修了。アンソニエイトインストラクターとして後進の指導にもあたる。帰国後モスクワ音楽院附属中央音楽学校において教育研修コースを修了。

現在東京を中心に定期的なソロリサイタルやオーケストラとの共演などソリストとして活躍中。室内楽奏者としてもデュオ からクインテットまでレパートリーも幅広い。また国内外のコンクール審査員や音楽祭・公開セミナーの講師など多方面で活躍中。

全日本ピアノ指導者協会正会員。ラインハイト室内楽アカデミー講師。フェルデンクライスプラクティショナー。大阪芸術大学非常勤講師。Music Studio C代表。

www.musicstudioc.com

Violin/ 瀬崎明日香

東京藝術大学附属高校を経て同大学を首席卒業。文化庁在外派遣研修員としてパリ国立高等音楽院大学院修了。日本音楽コンクール第1位、L.モーツァルト、ヴェニアフスキ国際コンクール上位入賞、トリエステ国際室内楽コンクール最高位受賞、フォーバル・ストラディヴァリウスコンクール優勝。

欧州、日本全国各地でソロ、室内楽、オーケストラとの共演等で活動を展開。2005年創設「コバケンとその仲間たちオーケストラ」のコンサートミストレスを務める。福岡アクロス弦楽合奏団メンバー。

東京・春・音楽祭、NHK-BSプレミアム、NHK-FM名曲リサイタル等に出演。秋吉台ミュージックアカデミー講師、日本音楽コンクール、日本クラシック音楽コンクール審査等、後進の指導も行う。ALMコジマ録音、VIRTUS CLASSICSよりソロアルバムを3枚リリース。

www.asukasezaki.com

Cello/ マルモ・ササキ

パドヴァ国立音楽院、ローザンヌ音楽院卒業、ベルリン国立芸大大学院修了。W.ベットヒャー、D.ゲリンガスに師事。ジェノヴァ国際コンクール他、多数優勝。ローザンヌ室内管、バーデン＝バーデン・フィル等とソリストとして共演し、高い評価を得る。ベルリン国立歌劇場管弦楽団に初のアジア人・永久正団員として、フォアシュピラーも務める（音楽監督 D.バレンボイム）。CD「チェロペラ～歌劇場の思い出」をリリース。白山開山1300年祭記念CD作成に参加。

東京・春・音楽祭（チェロ&ピアノ リサイタル）、コバケンとその仲間たちオーケストラ（客演首席奏者）他、ソロ及び室内楽奏者として世界各地で演奏活動を行っている。

www.marumosasaki.de